

2025年5月12日

# 2025年3月期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

# ハイライト

## 2025年3月期 連結

### 売上高

- ✓ **641億円、前同比2.1%増加**  
医療用医薬品事業に加え、アニマルヘルス事業が伸長し、過去最高を更新

### 売上原価

- ✓ **328億円、売上原価率 前同比0.1ポイント改善**  
原材料高騰等を製品ミックスでカバーし、同水準を維持

### 販売費及び 一般管理費

- ✓ **260億円、売上高販管費率 前同比2.0ポイント増加**  
減価償却費は減少したものの、研究開発の進展に伴う費用増等により、販管費率が上昇

### 営業利益

- ✓ **53億円、前同比18.0%減少**  
売上総利益の増加を上回る研究開発費の増加等により減益

## 2026年3月期 連結

### 業績予想

- ✓ **売上高 750億円、前同比16.9%増加**
- ✓ **営業利益 68億円、前同比27.5%増加**

# 損益計算書（連結）

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期	増減額	増減率
売上高	62,843	64,139	1,296	2.1%
営業利益	6,500	5,331	△1,168	△18.0%
経常利益	6,522	5,107	△1,414	△21.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,545	5,101	△2,444	△32.4%

## 増減要因

- ✓ 不確実性の高い経済環境が続く状況下においても、医療用医薬品事業やアニマルヘルス事業が堅調に推移し増収となりました。
- ✓ 増収に伴う売上総利益の増加はあったものの、研究開発の進展による費用増等の影響から販管費が増加した結果、営業利益・経常利益ともに前年同期より減益となりました。
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比でみると、前期に投資有価証券の売却に伴う特別利益を計上した反動から減益となりました。

# 事業別売上高（連結）

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	56,016	56,655	88.3%	639	1.1%
アニマルヘルス事業	6,664	7,246	11.3%	581	8.7%
その他事業	162	237	0.4%	74	45.8%
合計	62,843	64,139	100.0%	1,296	2.1%

## 増収要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。産婦人科領域製品の「レルミナ」「ドロエチ」が前年に引き続き増加し、内科領域製品の「チラーヂン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業においては、動物用医薬品、飼料添加物等の増加により、売上高が前同比8.7%増加しました。

# 主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2024年3月期	2025年3月期		2026年3月期計画		補足事項（25年3月期）
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	9,593	8,545	△ 10.9%	7,112	△ 16.8%	薬価はダウンしたが数量ベースをほぼ維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	7,862	8,113	3.2%	8,628	6.3%	疾患認知の向上などにより堅調に推移
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	5,864	6,455	10.1%	7,458	15.5%	ガイドラインの浸透により順調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,521	1,567	3.0%	1,629	4.0%	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	840	797	△ 5.1%	756	△ 5.2%	薬価ダウンが影響
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	9,906	10,531	6.3%	11,241	6.7%	子宮内膜症のシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	6,125	7,502	22.5%	6,064	△ 19.2%	想定以上の大幅な進捗
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	3,303	3,149	△ 4.6%	2,824	△ 10.3%	数量増だが薬価ダウンの影響が大きい
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	2,029	2,349	15.8%	2,228	△ 5.1%	引き続き堅調に推移
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	725	676	△ 6.8%	669	△ 1.0%	処方提案を継続
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	706	723	2.3%	580	△ 19.8%	想定通りの進捗
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	4,430	4,003	△ 9.6%	3,814	△ 4.7%	薬価ダウンが影響

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

# 主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2024年3月期	2025年3月期		2026年3月期計画	
	実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	4,042	4,584	13.4%	4,257	△ 7.1%
動物用医薬品 (畜水産+CA*)	2,487	2,601	4.6%	2,869	10.3%

## 増収要因

- ✓ 2025年3月期は、飼料添加物や動物用医薬品が伸長したことで増収となりました。
- ✓ 2026年3月期においては、飼料添加物は市場環境の影響を受け減少を見込む一方、動物用医薬品の伸長を見込んでいます。

※ コンパニオンアニマル

# 2026年3月期業績予想（連結）

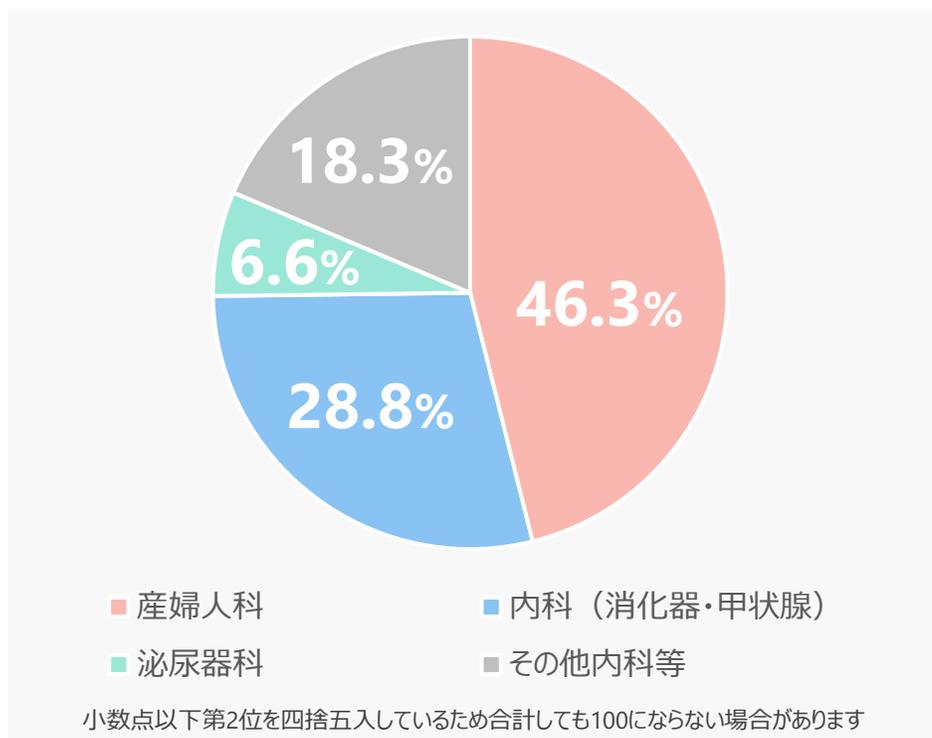
単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	64,139	75,000	10,860	16.9%
営業利益	5,331	6,800	1,468	27.5%
経常利益	5,107	6,800	1,692	33.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,101	5,200	98	1.9%

## 増減要因

- ✓ 売上高は、主力の医療用医薬品事業における主力製品であるリフキシマ、チラーチン、レルミナ等の伸長に加えて、ベトナム製薬企業Ha Tay Pharmaceutical Joint Stock Companyの連結子会社化により増収を予想しています。
- ✓ 利益面は、売上総利益の増加、研究開発費の減少等により、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益、いずれも増益を想定しています。

# 領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

## 領域別売上高比率※ (2025年3月期)

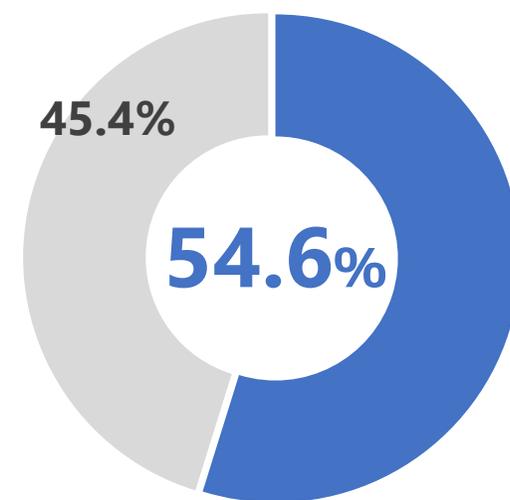
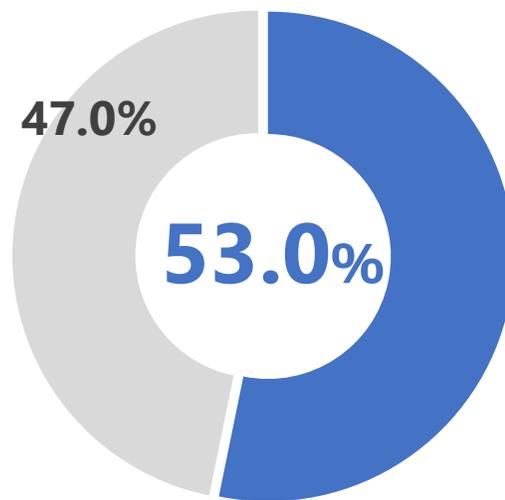


## 先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2024年3月期

2025年3月期



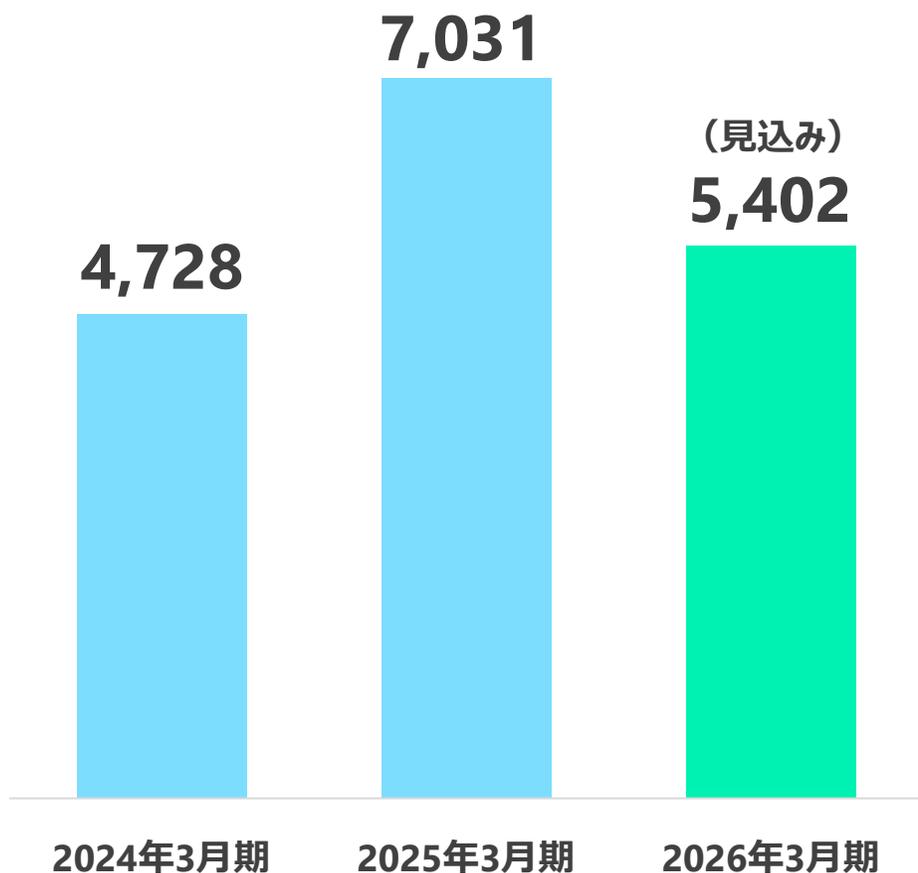
レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は1.6ポイント増加しました。

※ 2025年3月期第2四半期より内科領域の品目を見直し、一部製品を「その他」から「内科（消化器・甲状腺）」へ移行

# 研究開発の状況

## 研究開発費推移

(百万円)



## 2025年5月12日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	申請済み
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	PhⅢ実施中
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮内膜症	開発準備中
LPRI-CF113 (ドロスピレノン) 月経困難症	Ph I / II 実施中
AKP-SMD106 (治療用アプリ) 月経前症候群・月経前不快気分障害 (PMS・PMDD)	特定臨床研究 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 多嚢胞性卵巣症候群	開発準備中
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	PhⅢ終了
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II 実施中
AKP-021 (mPGES-1阻害剤)	Ph I 実施中
AKP-017 (テストステロン経鼻剤)	開発準備中